

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



検査結果の伝え方のポイント

1 検査前の配慮点 ～本人の困り感を共有する～

- (1) 検査目的の確認（検査の必要性があるか）※本校では就学に係る検査は実施しない
- (2) 保護者・本人の同意の確認（指導に生かす検査であることを学校から説明してもらう）
- (3) 学習・生活状況の把握（チェックリストや個別の指導計画を参考資料とする）
- (4) 授業参観（子どもの様子、学級の雰囲気、作品やノートを見せてもらう）

2 検査中の配慮点 ～子どもの最大限の力を引き出す～

- (1) 刺激の少ない環境設定（部屋の明るさ、広さ、室温、座る位置、いすや机の高さ等）
- (2) 子どもが力を発揮できる関係づくり（学校での出来事、興味・関心ある話題）
- (3) 学校の授業時間と合わせる（なるべく午前中に実施 ケースによっては午後や放課後も実施）
- (4) 検査に見通しがもてるように頑張り表を活用する（一つ終わるごとに本人が○を付ける）

3 検査結果の伝え方 ～保護者の希望を支える～ ニーズに合わせて報告書を作成（学校・保護者・本人）

- (1) なるべく両親が揃うように、保護者の都合のよい時間を設定する
 - (2) 数値も含めて、どのように伝えるか、学校と確認する
 - (3) 最初に結論を伝える（知的発達状況や認知特性）
 - (4) 頑張ったことを中心に、検査時の様子も伝える（子どものよさをたくさん紹介する）
 - (5) 保護者の心を開くために、得意と思われること→苦手と思われることの順に伝える
 - (6) 検査結果の解釈と関連させながら、小さい頃のエピソードや家庭での様子、日ごろ感じていることを紹介してもらう（子どもの困り感を共感しながら指導のヒントを提案する）
 - (7) 学校と家庭ができる具体的な指導内容・方法を伝える（教材・教具の提示）
 - (8) 保護者の表情、態度の変化を読み取りながら伝える（表情が和らぐ時を見逃さない!）
- ※小学校高学年以降は、自己理解を促すために、検査結果を子どもに伝えることもある。

得意な部分と苦手な部分を説明し、本人ができそうな具体的な方法を示めしたり、一緒に考えたりする。検査結果を本人が変わりたいと思えるきっかけにする。



i p a d

高等学校支援隊 出動!



書見台

- ・ある高等学校から、「弱視の生徒の実態や具体的な支援について知りたい!」という依頼を受け、県央地区高等学校支援隊の事務局である本校が、県立盲学校と連絡を取り合い、6月28日（金）に学校訪問した。メンバーは、盲学校の地域支援部主任、本校所属の特別支援教育アドバイザーと私の3名。2コマの授業参観と校内支援委員会に参加した。
 - ・授業では座席の工夫、教科書の拡大、板書計画の配付等の配慮が見られた。弱視の生徒が困った時、近くの友達に笑顔で聞く場面があり、助け合う風土ができていると感じた。支援委員会では盲学校の先生から、拡大教科書の購入方法、携帯読書機やiPadの紹介、書見台の活用、板書の留意点等、学校でできる支援についてアドバイスがあった。今後、盲学校と連携しながら詳しい実態把握を行い、その結果を学習や進路に生かすことにした。
- これからも高等学校支援隊は、あなただけのニーズに合わせて専門家を派遣します!**